

# 静岡県沿岸沖合域における海洋研究

(予算区分 受託 研究期間 平成9～ 年度)

担当：資源海洋科 吉田 彰

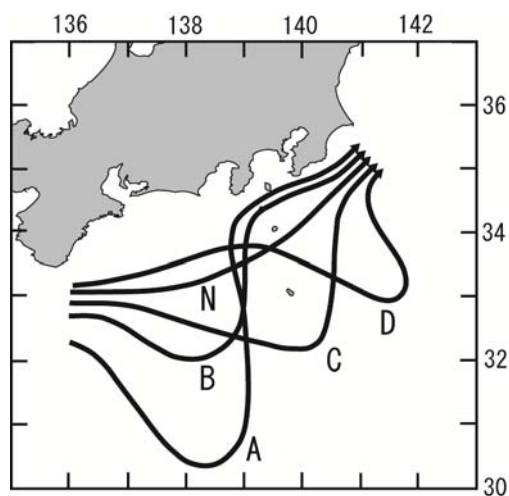
## 【研究の背景とねらい】

取得・蓄積した海洋情報を解析して静岡県沖合の黒潮流路変動や静岡県沿岸沖合域の海洋特性を把握し、漁場形成予測やより高度な資源管理情報を漁業者、関係団体へ伝達します。

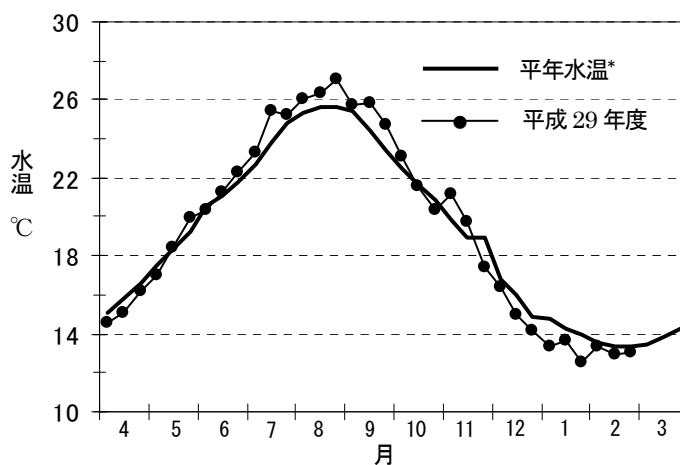
## 【これまでに得られた成果】

(平成29年度の状況)

- 平成29年度の黒潮流路は、4月はC型でしたが5月前半にD型に変化し6月後半に再びB型になりました。その後、7月～8月前半はC型、8月後半から大きく蛇行して大蛇行流路となり、9月後半にA型となって3月までA型が継続しました。
- 黒潮流路の変動に伴い沿岸に暖水が波及する傾向があり、暖水波及時には沿岸の定地水温は高めになります。29年度は7月～9月及び11月に焼津定地水温は高めでした。
- 調査結果を基に、漁況や海況の速報を1回/月、漁況予測については3回/年発表し、研修会やFAX等を通じて関係漁業者に伝達しました。



黒潮流路の型



焼津定地水温の月・旬別変化

\*：平年水温は過去20年の平均値

## 【期待される効果】

- 沿岸沖合域の海況予測や漁況測を活用することで、効率的、経済的な操業が可能となります。
- 沿岸沖合域の海況に基づく資源生物の成長等の解析により、より高度な資源管理を可能にします。
- 長期間の蓄積データを解析することで温暖化などに関連した長期的な環境把握が可能となります。

## 【今後の計画】

静岡県沿岸沖合域の海況調査を継続実施し、海況変動と漁況変動との関係を明らかにするとともに漁海況予測の精度向上を図ります。

(作成 平成30年4月)